



瓦粘土をこねて鬼瓦のパーツを作る園児ら

## 津井幼稚園へ 園児らが鬼瓦づくり体験

10月15日、津井幼稚園の園児15人が産業文化センターで「世界に一つだけの鬼瓦づくり」を体験しました。

園児数が減少している津井幼稚園を盛り立てようと、津井地域づくり協議会のメンバーらと同園が協力して取り組んでいる「つつい行きたくなる津井幼稚園」応援プロジェクトの一環。地域住民が先生となり、一緒に遊ぶ中で子どもたちの感性を磨こうと実施されました。

園児は、瓦粘土をこねて作った目や鼻、角などのパーツを土台につけるなど鬼瓦づくりに挑戦。鬼瓦は後日、地元瓦製作会社が焼き上げ、園児たちに届けられます。

子どもたちに豊かな感性を

## あべいすとが絵本寄贈

株式会社あべいすと（洲本市）から、市内保育所など22施設に絵本151冊が寄贈されました。同社は「子どもたちに豊かな感性を養ってほしい」と、平成28年から絵本を寄贈されており、今回で6回目となりました。

寄贈された絵本は、園児らが自分で読んだり、読み聞かせで活用されたりしています。また、保育所では園児らが親子で楽しい時間が過ごせるように、絵本の貸し出しを行っています。榎列保育所の園児らは「家族とみんなで読んだ」「読んでもらってうれしい」と喜んでいました。



寄贈された絵本の読み聞かせを楽しむ榎列保育所の園児ら

渦潮の世界遺産登録をめざして

## 1,300人が3海峡清掃

鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録をめざして「3海峡クリーンアップ大作戦」が11月6日、伊弉海岸（南あわじ市）、生石海岸（洲本市）、田ノ代海岸（淡路市）で行われ、島民ら約1,300人が参加しました。

渦潮発生のメカニズムに大きく関わる鳴門、紀淡、明石の3海峡周辺の美化活動を通じて、世界遺産登録への機運を高めようという取り組み。伊弉海岸では約550人が砂浜に流れ着いた木やプラスチックなどを拾い集め、約860kgのごみが回収されました。また、藻塩づくり体験などのワークショップも行われました。



伊弉海岸では550人が清掃活動に参加。ごみが拾い集められ美しい砂浜になりました

プロの指導で走り为上達

## 福良小で「夢プロジェクト」

小中学生にスポーツなどを通して努力することや友達の大切さを感じ、大きな夢を持って生活してもらおうと、著名なスポーツ選手や文化人らを講師に招いて行われる「夢プロジェクト」。10月21日に福良小学校で、元陸上ハードル選手で現在はスプリントコーチとして活躍する秋本真吾さんと、元陸上800m選手で現在はスポーツトレーナーとして活躍する鷲野哲平さんが講師となり、児童150人に速く走るコツなどを指導しました。

秋本さんは、まずハードル走の実演を披露。迫力あるプロの走りを間近で見た児童からは歓声が上がりました。その後、児童らは走るときの姿勢や腕の振り方、足の着き方などを教わって練習。指導を受けてすぐに上達を見せ、秋本さんは「すごい！みんなセンスあるよ」と称賛していました。



01



02

01 ハードル走の実演を見せる秋本さん  
02 速く走るコツを伝授する秋本さんら

地域の産業を身近に感じて

## 八木小で「淡路島牛丼」の授業

八木小学校で10月20日、「淡路島牛丼」を題材にした授業が行われました。子どもたちに地域の産業を身近に感じるとともに、地域の特徴を知ってもらおうと企画されたもので、5年生31人が参加しました。

淡路島牛丼は、島内産の牛肉、タマネギ、米を使用したご当地グルメ。今年は島内58店舗で工夫を凝らしたメニューが提供されています。

授業は、淡路島観光協会や淡路ビーフブランド化推進協議会、美菜恋来屋、市役所の関係者が講師となつて行われ、児童らは牛肉の生産過程を確認できるトレーサビリティ制度やタマネギの種類、淡路島牛丼の作り方などを学びました。また、授業の最後には試食があり、児童らは出来たての牛丼をおいしそうに頬張っていました。



01



02

01 淡路島牛丼を調理する様子を見つめる児童ら  
02 おいしそうに牛丼を試食する児童ら